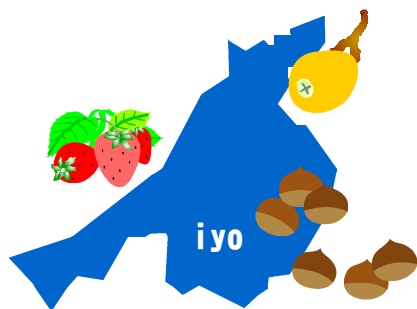




協働のまちづくりを実現する 市民討議会 NEWS

発行：平成30年9月

伊予市未来づくり戦略室 [伊予市米湊820番地 089-982-1111]

第4回伊予市市民討議会を開催しました！

8月26日(日)、伊予市役所4階会議室にて、「協働のまちづくりを実現する市民討議会」を開催しました。平成27年から始まった市民討議会は4回目となります。今回は無作為抽出により2,000名の市民の皆様にご案内し、希望された42名の皆様にご参加いただきました。

はじめに、市民討議会の目的と、これまでの市民討議会の成果について説明しました。次に7月に発生した西日本豪雨災害の被害状況についての報告をした後、実践的な防災訓練のアイデアをグループで出し合い、まとめていただきました。発表を聞いた後、各地域で是非取り組んでもらいたい提案にシール投票を行いました(p2~6)。

昼食後、「伊予市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の達成状況について説明した後、くじ引きで分かれた新しいグループで、身近に感じている具体的な情報を出し合い、達成度を評価していただきました(p6~9)。再度、グループ替えを行った後、31年度末の完了に向けて、重点的に取り組みたい課題を3つ選び、新たな達成目標を設定していただきました(p9~14)。

防災をテーマにした話し合いでは皆さんの関心も高く、真剣で白熱した議論となりました。今回は、10代や20代の若い参加者が増えたのも嬉しいことで、4回目となる市民討議会の認知度の高まりを感じました。

行政職員や議員さんも、伊予市在住であれば無作為抽出の市民として参加できる市民討議会は全国でも珍しく、伊予市の特徴となっています。

また、話し合いの成果や参加者の意見が直接担当部署や議会に届く可能性が高く、市民みなさんとともに伊予市を元気にしていく機会として、これからも市民討議会を息長く育てていきたいと思っています。

＜市民討議会プログラム＞

1：はじめに

第1ラウンド

ステップ2：災害列島日本の現実を認識し伊予市の防災問題を改めて考えます

第2ラウンド

ステップ3：伊予市まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明します

ステップ4：総合戦略の達成状況について評価しよう！

ステップ5 グループの評価結果を共有します

第3ラウンド

ステップ6：総合戦略の完了に向けて新たな達成目標を考えて下さい

ステップ7：まとめ

第4回目の市民討議会です。今日頂いた意見や提案が市政に反映されなくては何の意味もありません。伊予市の未来に繋がる大きな大きな提案として捉えていく所存です。

特に防災に関してはこの夏、愛媛県でも南予を中心に大きな被害が発生しました。この伊予市においてもいつ、このようなことが起こるかもしれません。自分の命は自分でまず守るという位置づけも必要ではないのかなと思いますが、防災についても皆様方のご意見も賜りながら行政と議会とで議論していくことが大事だと思います。

この討議会が行政にとって伊予市の未来を方向づける、意義のある会になりますこと、また皆様方にとって素晴らしい時間になることを心よりお願い申し上げます。



[武智邦典市長]



災害列島日本の現実を認識し 伊予市の防災問題を改めて考えました

7月に発生した西日本豪雨災害の被害状況の報告後、伊予市内で実施されている防災訓練の情報交換をしながら、より実践的な防災訓練のアイデアを出し合っていました。各グループからアイデアの提案発表が行われた後、是非取り組んでもらいたい提案に1人3票のシール投票を行いました。



平成30年7月豪雨における伊予市の被害状況等について

【降水量】※7月5日の降り始めから7月8日まで（双海池ノ久保東観測点）

○総雨量：387mm（参考：中山観測点395mm）

○24時間最大雨量：280mm

○1時間最大雨量：33mm

【開設した避難所と避難者数】

指定避難所：永木構造改善センター・佐礼谷生活改善センター・下灘コミュニティセンター・
唐川コミュニティセンター・緑風館・大平公民館

臨時避難所：中山地域事務所・双海地域事務所

福祉避難所：なかやま幸梅園

自主避難所：永木ふれあい館・上野公民館・三秋集会所

合計 12箇所 避難者数 146人

【被害状況】（8月1日時点）

農業施設・林業用施設・漁港・市道・河川など 合計 549箇所 11億7,610万円

【り災状況—住家の被害】（8月1日時点）

全壊1棟・半壊1棟・一部損壊1棟・床上浸水1棟・床下浸水9棟



実践的な防災訓練の提案

1 グループ 『個人の防災への意識付け』		18票
（具体的なアイデア） - 各地区ごとに防災の日を設定し、周知する。 - 防災訓練への参加の有無を明記する。 - 防災無線、メール等も活用して、各地区ごとに適した情報を発信する。		（ポストイット） ・組織のトップの意識づけ ・危険区域を再点検し、整理する。 ・河川の土砂の底ざらえを行う（すぐに氾濫する）。 ・個人個人の防災意識を高める。 ・地区での防災組織を作る。 ・情報が正確に伝わる仕組み
（発表） ・一人ひとりの防災への意識付けが大切で、いかにして個人の意識付けしていくかをタイトルとした。 ・各地域で防災の日を設定して周知させれば、少しは防災に対して意識が上がるのではないかな。 ・回覧板に出席するか出席しないか、名前を明記してもらうなど工夫していかないと、今のやり方ではなかなか人が集まらない。 ・防災無線が聞き取りづらいので、各地域に伝わりやすいものを市から提案してほしい。 ・鳥ノ木地区では防災だよりを3ヶ月に1回出している。これらを各地域ですると、より防災意識が高まるのではないかな。		

2グループ	『“組”ごとの防災訓練の実施』	17票
(具体的なアイデア) 1. 時間帯ごとの訓練の実施 2. 人、場所、地域を知る!! 3. 実際に想定して動く!!	(ポストイット) ・日頃から地域のつながりを大切にする。 ・いつ災害が起こっても、まず自分が安全なところへ逃げ、それから避難場所にたどり着く。 ・住民全員の確認法 ・実際の避難訓練 ・隣保班の少人数で勉強会をし、指導者から学びたい。 ・地域毎で危険度を決めて、避難の呼びかけをする（役所に頼りきりにならない）。 ・訓練を周知させて参加人数を増加させる。 ・近隣住民との協働訓練 ・様々な時間帯を想定した訓練（朝、昼、夜など） ・夜、災害が起こった場合の訓練も行う。 ・防災無線の音声をもっと聞きやすくする。 ・避難のタイミングをみんなで周知（学習） ・避難場所を組内、親戚の人に伝えておく。せめて組内の家族構成（氏名）が判るものを作成。 ・避難経路の確認。みんなで実際に歩く。 ・自力で避難が困難な人を周囲で事前に把握！ ・連絡網、声かけ、周りを知る。 ・防災訓練で、実際に避難時に必要なものを持って集まる。 ・実際に避難する時の服装や持ち物で参加→互いにチェックし合う。	
(発表) ・実際に荷物を持ってきたり、服装をお互いにチェックし合ったりする。 ・お互いの家族構成が分かるような名簿を作り、実際の避難経路、道のりを一緒に歩いて確認する。 ・昼はお勤めに行き、夜は人が少ない方がいたり、時間帯によっていろんな状況があると思うので、いろんな時間帯での訓練を実施。 ・自分達の命を守るということでお互いに、ご近所さん同士で確認し合うということが非常に大事なということ意見が一致した。		

3グループ	『心の通った防災訓練』	8票
(具体的なアイデア) 1. 近隣住民の連絡体制を充実させる。 2. 学校の授業で防災マップを作り、弱者がどこに居るかを調べてもらい、地域に配付する。 3. 実践的防災訓練として、避難場所までの時間を計る。周辺の防災組織図を行政に提出し、改善を図る。	(ポストイット) ・防災メールを配信 ・自己防衛方法 ・他力本願 ・防災無線の放送が聞こえない。 ・地域のつながりを作るための訓練 ・弱者に対する対策ができていない。 ・高齢者の避難方法 ・土地勘の無い住民の為に防災訓練 ・夏と冬にも避難訓練 ・昼夜に避難訓練 ・防災知識向上研修。防災知識の向上を図るための講座を開催し、スキル向上を図る。 ・自主防災組織の組織図は行政へも提出しているが、具体的な役割等の知識の向上が図られておらず、有名無実。行政のチェックをいただく。 ・地区の防災訓練の場へ行政からの立ち会い等がなく、行政の検証がなされていない。 ・災害発生から避難場所へ避難する時間がチェックされず、ダラダラとしている。 ・現状の防災訓練は緊張感がない。 ・災害発生周知→避難場所への避難のタイムチェックがない。時間を計る。	
(発表) ・障害を持った方や子どもなど、弱者を優先的に救済するために、どこに住んでいるかを予め把握しておく。 ・これからの日本を背負う小学生の総合学習の授業の中で防災に関する授業をやっていただく。 ・現在、自主防災の組織図を市役所に出しているが、内容を知らない人がいる。防災知識を得る講座等を開き、役割を周知させることが必要。 ・市側の検証が十分に行われていないことも問題である。		



4 グループ	『防災意識の話し合い』	12票
(具体的なアイデア) 1. 防災について話し合いの場をつくる。 2. 大勢の方が参加出来るよう工夫する。		(ポストイット) ・避難勧告が出てから、いつ逃げるのか。 ・消防団員の方が主体で防災訓練をしている。高齢者の一人暮らしの方はみんなで声かけをしている(普段、どの部屋にいるとか調査している)。 ・障がい者をどういう形で早く避難させるか(車椅子対応)。 ・山間部の災害防止 ・河川付近での対応 ・隣とのコミュニケーション ・まず地域の避難場所へ。避難の安全な場所を話し合う。山に住んでいます。下へ降りれば海です。
(発表) ・それぞれ地域は違うが、「私の家はこういうことで困ってるんよ」「こういうことに気が付いたら良いね」ということを地域の方と話が出来る場があると良い。一緒に食事しながらとか、堅い感じの防災の話し合いではなくて、皆さんと井戸端会議が出来るような場所があったら良い。 ・白水地区の八反地川に毎年3～4mぐらいの芦が1m幅で15mぐらい生える。県に除去をお願いしたが、根っこを残したために一人で1月から3月まで取り除く作業をした。おかげで水位があまり上がらなくなった。こういうことを地域の人みんなで行ってほしい。 ・隣近所のコミュニケーションも私の住んでいるところはあまりないため、防災訓練にもあまり出てこない。まずは防災についての話し合いをみんなでやり、それを楽しむ場に広げていったらどうか。 ・テレビや市から出される危険情報を頼りにし、早めに避難することが重要だと思う。いざというときにどうするか、いつも皆さんで考えていただいたら良いと思う。		

5 グループ	『防災訓練の意識を高めるには！』	4票
(ポストイット) ・防災意識の欠如 ・道路が寸断された時。消火、AEDの訓練。 ・高齢者に対して。満潮時に海岸に住む人達の避難方法。 ・意識の高い消防団の方々が地域に声かけ。 ・ハザードマップを实际見て確認。説明会が必要。 ・防災意識の啓発が大切。防災無線が聞こえにくい。 ・中山地区で、防災無線の事後確認が出来るが、余談が長すぎる。		・地域ごとの説明。避難場所、訓練。 ・どうやって避難するか。場所が少ない。 ・からぶりになっても、無理をしても近所の方々に声かけ、避難をする。 ・地区地区で声をかけ、どこに逃げるか、普段からコミュニケーションを図る必要。 ・風水害、地震、原発(双海まで)。風が吹けば伊予市は…危険。
(発表) ・特に消防団の人達の活用を皆さんで考えてほしいと思う。 ・防災無線の事後確認の際、必要のない言葉が多く余談が長すぎて欲しい情報を得ることが出来ない。 ・原発の避難区域は双海までと言うが、風が吹いた場合、伊予市は大丈夫なのか。 ・意識は本当に低い、向こう三軒両隣という結論になった。		



昨年9月、台風18号の際、中山の野中地区で豪雨が降り、気象庁から土砂災害を警戒する情報が発表されたので、市から即座に避難勧告を出しました。たとえそれがオオカミ少年になっても、市民の皆様方には情報をどんどん伝えていく、そういった方向で考えています。職業、年齢、考え方もそれぞれ違うと思いますが、少しずつでもスキルを上げていくために、地域で訓練を繰り返しやっていくことが大事ですし、10～15軒単位の組内でのコミュニケーションを深めていくことも大切です。



6 グループ

『まずは自分の身は自分で守ろう！訓練』

29票

(具体的なアイデア)

1. 防災リュックを作ってみよう！
2. 知ろう、見よう、聴こう、自分の地域
3. 動いて実践訓練してみよう！

(ポストイット)

- ・子どもと学ぶ訓練
- ・ご近所さんと一緒に避難するグループを決めて参加してもらう。
- ・自分で自分を守るという、ひとりひとりの自覚が大切。
- ・防災リュック準備訓練
- ・過去の災害被害の把握（情報伝達）
- ・危険箇所の共有、報告
- ・ハザードマップ。弱者、名前。
- ・仕切り作りの訓練
- ・情報の取得訓練
- ・土嚢の運搬訓練

(発表)

- ・両親はリュックはあるが中身を準備していなかった。また、義母も災害が起きそうになって急いで準備していた。皆で集まって中身を確認し合えば、訓練を通じて自分の防災リュックが出来上がるし、良いと思う。
- ・過去にこの地域であった災害について、年配の方から聞く機会を持ったり、今現在、危険のあるところを共有、報告する。
- ・防災無線が聞こえない場合、防災無線の内容をどこに問い合わせるのか、またスマートフォンを使ってどこのホームページを見に行けば良いのか、情報を実際に取得するための訓練をしたら良いのではないか。
- ・地域の弱者の方の名簿を作る訓練もするべきではないか。
- ・水害時の土嚢作りに向け、どこに袋があるのか、どう作るべきなのかという訓練をしてみたり、避難時の段ボールハウスを作ってみるなど、子どもやお年寄の方、ご近所で一緒に訓練をするべきだ。

7 グループ

『防災訓練全員参加』

(20号台風 唐川地区ではほぼ全員避難、避難場所を増設した)

11票

(具体的なアイデア)

1. 町内会組織を細分した「組（数戸～10戸）」単位に、日頃から声かけし、意識を高める。
2. 日頃から連絡網を徹底する。月一度位、連絡訓練をしておく。連絡責任者を決めておく。
3. 障がい者、高齢者、独居の人の連れ出し体制（複数）をつくっておく。

(発表)

- ・先日の豪雨災害で無線が届かない、避難の声が聞こえなかったという中、唐川地区ではほぼ全員が避難した。避難場所の増設もしたということで、それが大事だと話し合った。日頃から防災訓練に全員が参加していれば、皆さんの命が助かるのではないかと。
- ・組内や引き合い等、小さな単位で日頃から声を掛け合って、「明日は防災訓練があるから全員行こうな」と、事前に確認しておくのも一つのアイデア。
- ・防災無線の連絡が聞きにくかったことが南伊予地区であったので、日頃から連絡網を徹底する。連絡責任者を決め、月1度は防災訓練の連絡として、連絡網に沿って情報を伝達する。
- ・障がい者、高齢者、独居の方を支援する体制を決めておけば、全員が無事に避難できる。



グループ討議



提案の発表



良いと思う提案に
シール投票しました！

(具体的なアイデア)

1. 防災関連のデータの数値、活用方法について深く学ぶ。
2. 避難行動の先進地域からノウハウを学ぶ。
3. 防災端末を各家庭に配布

(ポストイット)

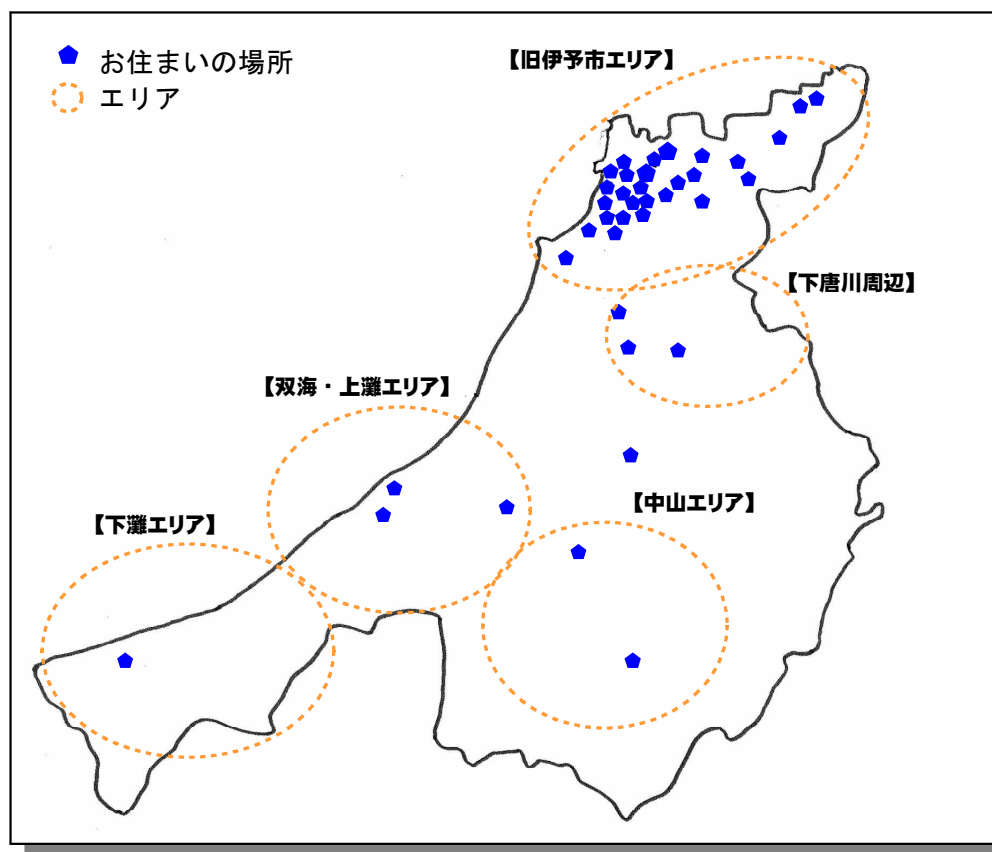
- ・地震等による複合災害の場合のハザードマップ(溜め池、津波)
- ・伊予市は山間部、平地部、臨海部と立地が多岐に渡るため、それぞれの地域で想定される災害に合った内容にするべき。
- ・備蓄物資について学ぶ講義。詰め方のレクチャー等。
- ・防災関連データの数値(各種データ)の詳細について学べる講義等。
- ・防災情報の伝達について。現行の防災無線の有効性について→聞こえない場所がある。
- ・自主避難困難者の情報共有→避難時の声かけのため

(発表)

- ・自分の家にどのようなリスクがあるのか把握されている人は少ないと思う。そういう具体的な情報をまず把握しないと、本質的な訓練は出来ない。
- ・防災関連の細かいデータ、ハザードマップをベースにして、どういうことが起こり得るのか、それに対してどういう対策をするべきなのかを、まず学ぶことが大事なのではないか。
- ・避難行動について、経験のある地域の方に、ノウハウを学ぶための講義をしてもらう。
- ・防災端末だけではなく、自立避難が困難な方の情報を共有することも含めて情報の共有、伝達のあり方を考えるべきではないか。

伊予市まち・ひと・しごと創生総合戦略の 達成状況について評価しました

伊予市まち・ひと・しごと創生総合戦略の達成状況について市から説明した後、各自が身近に感じている具体的な情報について書き出し、総合戦略全体の達成度合いをグループで評価しました。



作業の手順

- ① ご自分の住まいにシールを貼る。
- ② 22項目の具体的な取り組みについて、身近に起きた変化をポストイットに書き出す。
- ③ 総合戦略全体の達成度合いについて、グループで評価する。



1. 身近に起きた変化

【旧伊予市エリア】

<安定した雇用を創出する>

- ・水産試験場。魚を開発、地元に貢献を。
- ・更に企業誘致するには土地が足りない。
- ・鉄工所が移転してきた。
- ・企業誘致の場合、伊予市からの採用は？社員数が増加しているか？
- ・今年、稲が植えられていない土地があった。

<新しい人の流れをつくる>

- ・ウェルピアの利用状況、利用人数は？
- ・宿泊施設が少ない。
- ・三島町で4軒分の宅地の売り出しが始まった。
- ・宮下、三島町、尾崎の辺りは分譲地が増えている！
- ・松本地区は住宅増加。白水地区は人口減。
- ・JR貨物基地駅設置→人口増？
- ・調整区域で家が建てられない。

<若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる>

- ・小中学生が減少し、今年4月から愛護班も消滅しました（七反）。4世帯5人。
- ・伊予小学校放課後児童クラブ
- ・郡中児童クラブ
- ・認定こども園
- ・尾崎の方に児童館がある。
- ・秋祭り（臼時）がバラバラで、年々さびしくなっているような気がする。子ども減少。

<安全・安心な暮らしを守る>

（賑わいの創出）

- ・中心市街地の空き家、空き店舗が目立つ。
- ・空き家が増えている。高齢者増加。
- ・買い物できる場所が少ない。松前町、松山市へ。
- ・夜市で特産品。
- ・町家の駐車場小。「いよっこら」より魅力がない。
- ・町家の買い物客は多いけど、テナント利用者は少ない？
- ・商店街の通行者数、目標の立て方は適正か？
- ・商店街は店を閉めるのが早すぎ。
- ・イベントがある日は多いが、日常は人通りが少なく、夜怖い。
- ・スーパー、コンビニが出来た。
- ・コンビニ、ドラッグストアが出来た。
- ・ハンバーガー屋さんが出来た。起業。
- ・中心部よりもR56付近の活性化が目覚ましい。コンビニのコスモス3軒、ダイレックス1軒、スーパーフジ、マルヨシセンター、マルナカ、バリュー、ダイキ。
- ・コスモス新川店、ダイレックス。

（暮らしの安全・安心）

- ・整形外科医院が出来た。
- ・有料老人ホームあいじゅ
- ・医療機関が少ない。小児科、救急。
- ・病児病後保育、医療費無料。
- ・松山救急センターまで遠い。待ち時間が長い。

（コミュニティの基盤を整える）

- ・コミュニティバスの利用者。買い物等、病院への通院によく利用されている。
- ・コミュニティバスの充実
- ・コミュニティバスの路線
- ・バスはよく走っている。しかしガラガラ。経路？時刻？
- ・踏切による市内中心部の分断
- ・上野の辺りは道路がきれいに整備されている。



【下唐川周辺】

<安定した雇用を創出する>

- ・ブルーベリー狩（農家）
- ・農地の規制緩和。1反以上の農地保有者は農地が買えるように。5反→1反。

<安全・安心な暮らしを守る>

- ・コミュニティバスの利便性が悪い。
- ・上下水道、ほぼ改修。

【その他】

- ・三世代交流イベントを年間2回行っている。年末（餅つき）、春（わら草履作り、ビーズの飾り物作り）
- ・水道普及率の向上。上下水道、下水道完備されている。
- ・放課後児童クラブ、交流支援事業 ほぼ100%。健康寿命の延伸 ほぼ100%、空き家の活用はできていない。ほぼ0%。
- ・市街化調整区域がある為、住宅が建たない（全体的に）。
- ・新規就農者のための農地が少ない（全体的に）。

【双海、上灘エリア】

<新しい人の流れをつくる>

- ・観光列車の利用者増。
- ・サイクリングが人気
- ・自転車利用者は多いけど、通り道になっているだけ？
- ・シーサイド公園の駐車場拡大。
- ・移住者増。
- ・移住者が来て街が明るくなる。若い人が増える。地域の受け入れ体制が整っている。
- ・移住者でパン屋さんをやっている人がいる。人気！「107」
- ・神奈川県から移住してきた人がいる。
- ・田畑が荒れている。

<安全・安心な暮らしを守る>

- ・サロン等を取り入れて、徐々に人とのつながりが出来ていると思う。
- ・夕焼け村でコミュニティの活性化が見られる。
- ・地域おこし協力隊の人たちは地元参加に協力的。
- ・デマンドタクシーの見直しをしてほしい。
- ・デマンドタクシーは意外と不便。見直しが必要。
- ・コミュニティバスとデマンドタクシーの認知度が低い。細い道は通れない。
- ・県、国道等の道路の白線が消えているので運転が怖い。
- ・上水道を市が管理するようになって断水、汚水が減った。

【下灘エリア】

<安定した雇用を創出する>

- ・新規就農者が山間部にいない。サポートが必要。山が荒れていく…。

<新しい人の流れをつくる>

- ・下灘駅の観光客。夕焼けコンサート、イベント。
- ・移住者の増加。
- ・移住者増。

<安全・安心な暮らしを守る>

- ・サロン、婦人会など、地域の活動が少なくなってきた。

【中山エリア】

<安定した雇用を創出する>

- ・道の駅事業拡大。8/25道の駅なかやま誕生。今後の動向。
- ・道の駅なかやまオープン。
- ・モンタナ（パン屋）は大流行

<安全・安心な暮らしを守る>

- ・空き家の増加が目立つ。
- ・中山町にもコンビニが2カ所出来た。
- ・デマンドタクシーの利用が増えた。



2. 総合戦略全体の達成度

1 グループ	40%
2 グループ	45%
3 グループ	50%
4 グループ	25%
5 グループ	18%
6 グループ	48%
7 グループ	45%
8 グループ	30%

成果が出ていると思われる周辺部では、反対に人口が減っている。施策自体が人口増と結びついているのか、市はよく分析して結果を受け止めて頂きたい。
(ファシリテーター)

< 1 グループ >

全体的に目標値に緩いところがあるので40%になった。56号線沿いは住みやすい場所だと思う。

< 2 グループ >

大体4～5割ということで達成度は45%。住む場所がバラバラなのでも意見もバラバラになった。

< 3 グループ >

全体的にオマケも入って50%ぐらい。今回の問題を踏まえてどうしていくか、将来の伊予市のために考えていったら良い。

< 4 グループ >

中心に住む方が多く、出来たことよりも不満点の意見が出た。伊予に來たい人は多い。

< 5 グループ >

町に住む方が密集していて身近には成果があまり感じられなかった。ので18%になった。

< 6 グループ >

全員から出た数字を割って、中途半端な48%になったが、大概3割から6割になっている。

< 7 グループ >

近くに住む方が多かったので、農業の話やグリーンツーリズムの話はあまり出来ず、身近なことについて話した。

< 8 グループ >

全体としては30%だが、もう少し上かも分からないし、下かも分からない。

伊予市まち・ひと・しごと創生総合戦略の完了に向けて新たな達成目標を考え考えました

平成31年度末の完了に向けて、グループごとに22項目の中から3つの重点的な取り組み課題を選ぶとともに、新たな達成目標（成果指標）を話し合っていました。[] はグループ番号

1 安定した雇用を創出する	■農産物の特産化 [2] ★新たな成果指標：愛媛のアンテナショップやコンビニに新規に商品を置く。(5カ所) ・ジャバラの活用（汁を抽出、皮はジャムに）※花粉症対策に効果あり。 ・中山栗のPR活動の充実。栗の加工品（ジャム、ケーキなどの材料）の提案。ブランド化、ロゴマークの活用。 ～発表から～ ジャバラの活用を佐礼谷の女性グループの方がされていて、花粉症対策に効果があるという。中山栗の加工品は結構売れていると思うが、愛媛のアンテナショップやコンビニにも置いてもらえたら、もう少し売り上げが上がるのではないかな。
	■ふるさと納税で魅力的な返礼品の拡充（農産物の特産化）[3] ★新たな成果指標：税収3000万→6000万 ・ふるさと納税で魅力的な返礼品を拡充させる。ネットで話題となり、特産品、市名の周知化。税収増にもつながる（栗、かつおぶし等）。 ・伊予市の特産品をアピールする。 ～発表から～ 伊予市独自の名産物を作り、それをアピールして納税をしていただく。今はふるさと納税の税収入が3000万円ぐらいなので、倍増の6000万円が目標の指針になる。

■道の駅等施設利用拡大事業【4】

★新たな成果指標：道の駅ふたみ販売額 7000万円

- ・交流人口を増やす。
- ・地元の産物であるハモ、タイ、じゃこ天を使ったインパクトのある海鮮丼（西条のマルトモ水産、鳴門市のびんび家等）

～発表から～

ハモ、タイ、じゃこ天等、地元の海産物を使用したインパクトのある海鮮丼を作ってはどうか。西条のマルトモ水産や鳴門市のびんび家では連日、待たないと食べられない。

■道の駅等施設利用拡大事業【6】

★中山・双海の道の駅、駐車場拡大による集客増。グリーンツーリズム等の情報発信。

- ・駐車場の拡大で50%増。
- ・道の駅で100,000人増。
- ・サイクリングの普及により20%増。けっこう双海に自転車が多いけど、カウンターの仕方？

～発表から～

郊外商業施設は駐車場が一番。駐車場を拡大をすることで集客率が上がるのではないかな。また道の駅で情報発信することによって広報につながるのではないかな。

■新規就農者の支援【8】

～発表から～

農業支援活動を市もしているがあまり結果は出ていない。5反なくても1反でも田畑を持っていたら自由に農地が買えるようにすれば伊予市の農業は活性化するのではないかな。松山市は3反で買えるので伊予市は1反でも買えるようにする。人よりも先に始めないと発展はない。

■6次産業化による新しい付加価値を活性化【8】

～発表から～

農家も農業だけやっていたら生きていけない時代。市役所だけ、農協だけではなくて、一人ひとりが頑張って生きていく。伊予市に新しい血を入れることが大事ではないかな。

■スポーツイベントの開催「夕焼け小焼けマラソン」【3】

★新たな成果指標：10年後 10,000人参加

- ・全国的企業（ヤマキ、マルトモ等）の協賛により伊予市のアピールが出来る。
- ・老若男女、誰もが参加出来て、住民の健康増進につながる。
- ・しおさい公園をスタートし、JR下灘駅で折り返すと42.195km。途中、三秋の坂がネックになるが比較的平坦なコースで記録も出る。相乗効果で年々参加者が増える。

～発表から～

下灘駅は夕焼けで有名。全国的な企業の協賛を得て伊予市が開催し、老若男女、誰もが参加出来、住民の健康増進につながる。開催時期も伊予市だから、イイヨということで11月4日ぐらいに開催すれば良いのではないかな。

■グリーンツーリズム等着地型観光の推進【6】

★新たな成果指標：宿泊利用拡大と空き家の活用

- ・8. グリーンツーリズム、11. 宿泊需要、20. 空き家の活用を融合して、人の流れを作る。

～発表から～

農業体験、産業体験を宿泊制にすることによって集客を図り、人の流れを作る。例えば農業だと仕込み時期、手入れ時期、収穫時期、その度に宿泊をすればリピート率が上がる。花の森ホテルやウェルピア伊予を利用したり、リフォームした空き家を活用する。

■宿泊需要の創出（ウェルピア伊予）〔2〕

★新たな成果指標：温泉の発掘（新しい冷泉？）（1件）

- ・現施設の見直し
- ・スポーツに特化した宿泊プランを創出（サイクリング、ビーチバレーの大会の充実等）

～発表から～

スポーツに特化した宿泊プランを立ててみたらどうか。

■移住の推進〔4〕

★新たな成果指標：移住世帯数（新規）50世帯

- ・地元の受け入れ体制を整えることが重要。
- ・移住フェアへの積極的な参加と面談者への再三のアプローチ
- ・伊予市の環境（災害が少なく温泉があり、温かな気候、人のつながりを大切にする等）を説明。

～発表から～

世帯が集まれば人口も増えると考えた。地元の受け入れ体制を整えることは当然だが、面談者に再三のアプローチをかける方法を工夫したり、伊予市の環境をアピールして移住を取り付けていただきたい。女性一人旅では道後温泉が3年連続トップである。

■移住・定住推進アクションプランに基づく移住の推進〔6〕

★新たな成果指標：農地活用の緩和。空き家活用と地域の活性化。

- ・結婚支援
- ・新規就農者の確保、育成
- ・企業誘致と地元雇用を同時に行うよう、推進する。

～発表から～

「結婚支援」「新規就農者の確保、育成」「企業誘致と地元雇用を同時に行うよう推進する」の3つを重点的に進めることによって農地活用緩和と空き家活用と地域の活性化につながっていくのではないかな。

■移住定住推進アクションプランに基づく移住の推進〔7〕

★新たな成果指標：移住者数、調整区域の緩和

- ・県外だけでなく松山、松前のベッドタウンに。
- ・市街化調整区域を外す→住宅地へ

～発表から～

県外から来られる方だけではなくて、市外から移住されてくる方も多いのではないかな。住宅地になっているところが少ないというところもあって、市街化調整区域を外して住宅地に出来るような策があれば良いのではないかな。

伊予市からのまとめのコメント

総合計画の策定には市民17名で構成する審議会21回、市民ワークショップ3回、市民討議会1回、市民アンケート1回を行い、2年半かけて作りました。一方、総合戦略は有識者会議2回とアンケートのみ、半年という短期間で作った結果、市民の意見をあまり反映させることが出来ず、市民の意識、考えが置き去りになっていたのではないかと反省するところです。総合戦略は「住んでみたいと思える伊予市にしたい」という思いで作りましたが、今日のご意見を聞き、「伊予市に住み続けたいと思ってもらえるまち」にするのがまず一番なんだと思います。

今日いただいたご意見は各部署に伝達し、可能なものから実行に移していきたいと考えています。また新たな計画を作る際にはご意見を反映させ、より実効性のある計画にしていきたいと思っています。

3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	■結婚支援センターを中心とした様々な出会いの場の提供【4】
		★新たな成果指標：マッチング件数 新規20件 ・本人のみでなく親も参加（地元情報が分かっている） ～発表から～ まずは地元でお父さん、お母さんがいろいろな人と知り合う。その人の子どもならお父さん、お母さんも安心するし、子ども同士も安心して身を任せられるのではないかな。
		■子育て支援サービスの充実【5】
		・補助金（年収に応じて…） ・土日、祝日利用出来る施設の充実 ～発表から～ 補助金は今もあると思うが、働く女性が多く、お金の面で子どもを産むのが大変ということがあるので、年収や生活状況に合わせた補助も大切ではないかな。また土日、祝日に働く女性もいるので、そういう人も利用出来る施設が朝から晩まであったら良い。
4	安全・安心なくらしを守る	■子育て支援サービス、放課後児童クラブ交流支援事業【7】
		★新たな成果指標：待機児童者数、児童クラブ利用数、児童クラブ利用率 ～発表から～ 今の指標は病児保育の利用者数や放課後児童クラブの登録児童数だが、実際利用しているというだけではなく、その基となる希望される方や利用しようとしている人、待機児童の数や児童クラブの利用数、利用率を指標として加えたらどうか。
		■救急医療体制の充実【2】
		★新たな成果指標：ヘリポートの新規契約（1件） ・救急車の台数を増やす（砥部、松前、伊予市エリアが同一地区） ・ヘリポートの充実（既存ホテルの駐車場の活用） ～発表から～ 現在は伊予市の救急車が空いていなかったら砥部や松前の救急車が来るので、台数が増えたら助かる。またドクターヘリが着陸できる場所として、ホテルの駐車場を利用する。
		■地域公共交通の利用促進【5】
		・他の交通機関と連携する。 ・運転免許返納者に対し、何らかのサービスを。費用、福祉etc. ～発表から～ 伊予鉄やＪＲと連携した運行計画があればもっと利用する人が増えるのではないかな。また運転免許返納者に対する費用負担や福祉のサービスを充実させるのが良い。高齢者の中には運転を生き甲斐にしている人も多数いて、免許を返納することで自立が出来なくなる、自立出来なくなったら家族が施設に入れる。施設によってお金も掛かり、そのお金が払えなくなったら持ち家を売るから空き家も増える…。地域の公共交通の利用と空き家の問題の両方を解決すべきではないかな。
		■コミュニティバスの利用促進【8】
		～発表から～ 始点と終点を市役所にしてもらおうと大変便利。市役所のワンストップ窓口のスペースを広げて、市役所に来たら買い物も出来る、医者へも行ける、銀行や郵便局にも行ける、全てが出来るとなると伊予市の中心、官庁街のような構想で将来の伊予市を考えて頂いたら良いのではないかな。

■健康寿命の延伸【1】

★新たな成果指標：特定健診受診率（30％／年）

- ・健康グループ内で体操、ジョギング、俳句などを通じ、コミュニケーションを図る。
- ～発表から～ コミュニケーションを図ることが大事。

■健康寿命の延伸【3】

- ・受動喫煙を防止する伊予市独自の条例の整備（施設内禁煙）
- ・健康を維持するための教室を開く。
- ・食事の取り方の説明会の開催
- ・歩行効果の説明、歩行の勧め
- ・健康保険、介護保険を使わないよう元気でいよう!!本人は元より、家族孝行になるよう気をつける。
- ～発表から～
個人個人の健康について家族ぐるみで話し合って健康は自己管理をするべきという意見が出た。受動喫煙に関して、松山市では既に松山市独自の条例が制定されている。伊予市でも明日から条例の整備に取り組んでいただいて、市内の施設は禁煙にしてほしい。喫煙しない人が喫煙者と交わるところを排除してほしい。

■健康寿命の延伸【6】

- ・75歳以上の人にも健康診断の推進（通知）をする。
- ・特定健診受診率16％。ハガキの案内が来るが受診していない。病気持ちで2ヶ月に1回受診しているので、未受診にはカウントしないほしい。

■空き家の活用【1】

★新たな成果指標：空き家の活用（5件／年）

- ・空き家のリフォーム。カフェ、コミュニティサロンなど。
- ～発表から～
地域でも実際リフォームしてカフェをしている人達がいて、そこへ周りからも人が来るし、地域自体が明るくなると思う。カフェや、元気な人が集まるサロンを作る活動があれば良い。

■空き家の活用【5】

- ・新規移住者に対して格安で提供
- ・空き家活用。増えるだけで活用方法がない。
- ～発表～
空き家を壊すだけでもお金も掛かる。新規移住者に対して格安で提供すれば家が壊れたり腐ったりせず、良い方向に行くのではないかと。空き家は増えるだけで有効な活用方法が見つからないので、活用方法についてみんなで検討していくと良いのではないかと。

■中心市街地の活性化【1】

★新たな成果指標：中心市街地にある施設の利用者数（300人／日）

- ・憩いの場となるようにする。
- ・品揃えが時代にマッチしていない。スマートフォン、ゲーム機、流行を取り入れたファッション。商品の見直し（若者のニーズに応える）
- ・中心市街地の活性化。漁協とタイアップしたお魚市（直売）。魚料理の提供。
- ～発表から～
品揃えを時代に合わせ、流行を取り入れていくべき。そして漁協とタイアップした魚市場、魚料理の提供ということも考えていったら良いと思う。

■中心市街地の活性化、町家の有効活用（駅を含めて）、ターゲットを絞る【7】

★新たな成果指標：町家利用者数（通学者・通勤者をターゲット。駅周辺の屋根の設置。）

～発表から～

町家には、もう少し魅力ある活用方法があるのではないかと。車や駅を利用する方の利用は多いと思うが、実際に町家を使っているのかどうか疑問に感じるところがあるので、ターゲットを絞り、通学や通勤の方が使えるように。また駅周辺を屋根付きにして利用しやすくしたり駐車場をもう少し数を広げたりして、利用者数を増やしていく指標にした。

■コミュニティ活動の活性化【8】

- ・伊予市の会社やお店の名物、観光地をPRする為に月1ぐらいで市主催の町めぐり
- ・提案をクラウドソーシング（インターネットを通じ、不特定多数の人々に委託する手法）する。

まとめ

最後に簡単なアンケートにお答えいただき、篠藤先生と前田先生からコメントをいただきました。

その場アンケート

(39人中)

1. 今日、参加して楽しかったですか？	36人
2. 今日の内容について、家族に話しますか？	36人
3. もし友人や知人に案内が来たら、参加を勧めますか？	31人



篠藤明德教授（別府大学文学部人間関係学科）

今、先進諸国ではシェアエコノミーが進み、所有する時代からみんなでシェアする、そういう社会が豊かで良い社会だという風に変わりつつあります。人々が参加しなければ、もう社会が成り立たないことになっています。最近、世界では無作為抽出型の参加が新しい社会を作るといって、大転換が起こっています。その代表例がアイルランドの憲法制定会議です。ここは2/3の無作為抽出で集まった一般市民と1/3の議員とで憲法制定会議を行いました。そこでこの討議会のように小さなグループで議論をし憲法改正の条項を作り、国会が発議をして国民投票をし、カソリックの国なのに同性婚を憲法改正で認めました。要するにプロの政治家や役人、経済界の人信用されていない、一般の人が表に立たないと信頼、信用がないということです。

伊予市の市民討議会では職員も議員も入って討議をやっていますが、日本で400以上の事例がある中でおそらく伊予市だけです。来週のベルリン国際会議で「アイルランドモデルと伊予モデルは実は一緒だ」と報告してきたいと思っています。

前田洋枝准教授（南山大学総合政策学部）

午前中の防災訓練のアイデアでは、「参加を表明してもら」「直接誘う」ことが出されました。予め意見表明してもらったり直接呼びかけたりすることで、参加することを他者から期待される、専門的な言葉で「社会規範評価」と言いますが、その感覚を高めていくことが行動を起こしてもらう上で効果的であるということが知られています。専門的な知見からも、自分の暮らしの中からアイデアとして出されたというのはとても良かったと思います。また午後の達成評価でも出された情報に引っ張られずに、今まで感じてきたことから議論されたことは良かったと思います。

今日の討議の中で、空き家と地域公共交通の問題を結びつけるなど、地域の問題のつながりを見つけてそれに対して意見を言われたのはすごいなと思いました。